令和７年産

大崎稲作情報　第７号

令和７年８月２１日発行
宮城県米づくり推進大崎地方本部
大崎農業改良普及センター
TEL：0229-91-0726　FAX：0229-23-0910
https://www.pref.miyagi.jp/site/osnokai/

今回のポイント
- ○収量・品質向上のため、落水時期は出穂後 30 日を目安としましょう。
- ○適期刈取りと適正な乾燥調製に努めましょう。
- ○収穫用機械・乾燥調製施設等の点検・整備は、早めに行いましょう。

１　気象経過と生育概況

（１）気象経過（前５か年間平均値との比較）

気温は高く推移しています。８月に入り平年並となりましたが、平均気温は２５℃を超えています。日照時間は、８月第１半旬は平年より少なかったものの、その前後は多い状態が続いています。６月第４半旬～７月第６半旬まで少雨が続いていましたが、８月第１～３半旬は平年並の降水量となりました。

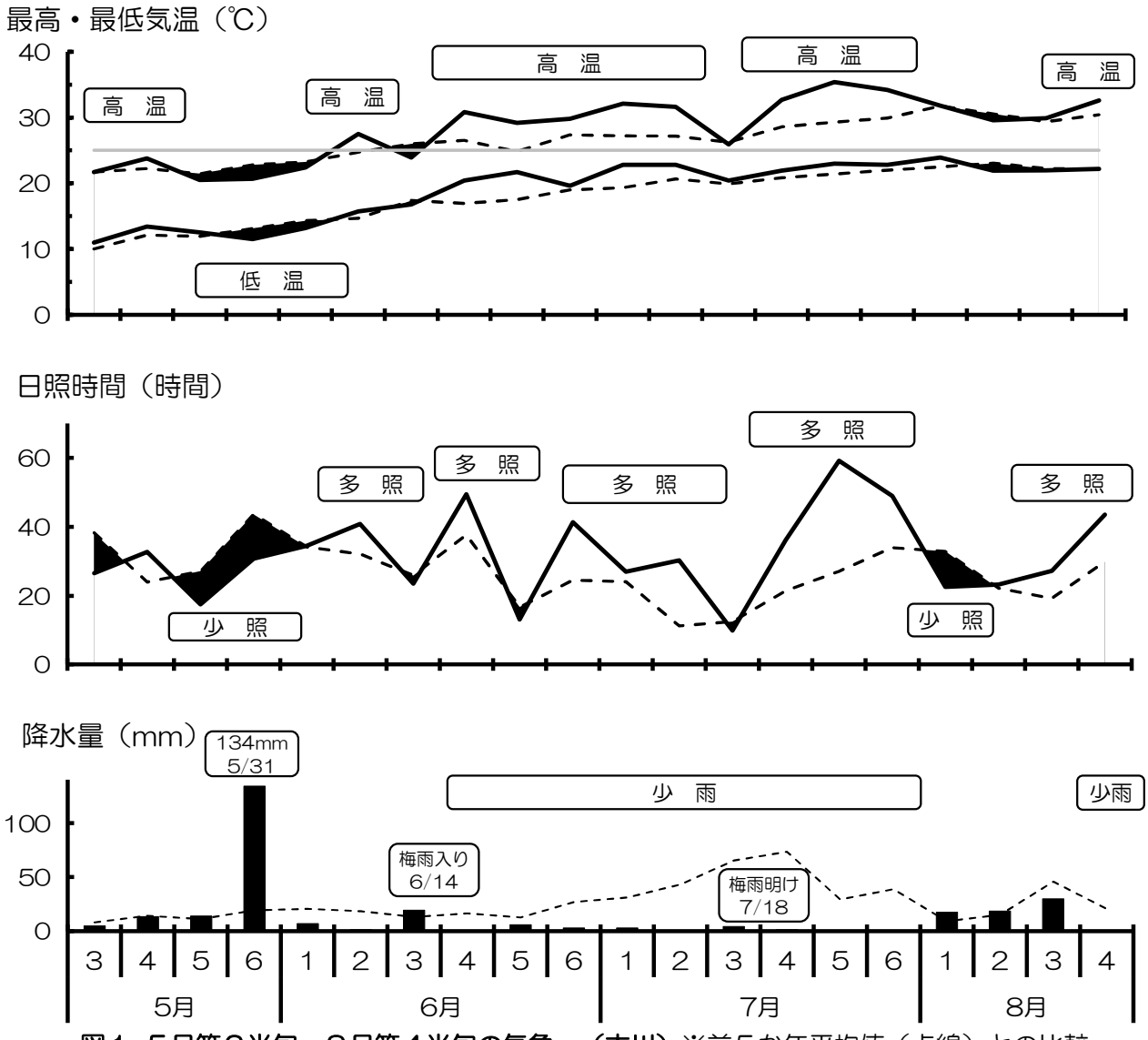

図１　５月第３半旬～８月第４半旬の気象　（古川）※前５か年平均値（点線）との比較。

（2）出穂期

管内の出穂期は7月２７日で平年より４日早くなりました。

表１　管内の出穂状況

地域	出穂始期	出穂期	穂揃期
管内全体	7月25日 3日早い	7月27日 4日早い	8月5日 1日早い
山間高冷	7月27日	8月2日	8月10日
西部丘陵	7月25日	7月28日	8月6日
北部平坦	7月25日	7月27日	8月4日

※ 出穂始期、出穂期、穂揃期は、それぞれ水稲作付見込面積の５%、５０%、９５%以上が出穂した日

※ 平年差は前５か年（令和２～６年）との比較

（3）生育概況

生育調査ほの出穂期は、全地点で平年より早くなりました。

穂揃期の葉色は、平年よりもひとめぼれで濃く、ササニシキは薄くなりました。

乾田直播ササニシキでは、移植栽培よりも出穂期が 5～12 日程度遅くなりました。また、大豆後作では穂揃期葉色が高めに維持されています。

表２　生育ステージ及び穂揃期葉色調査結果

栽培様式	品種名	地区名	前作	田植日 播種日 月/日 （平年差）	幼穂形成始期 月/日 （平年差）	減数分裂期 月/日 （平年差）	出穂期 月/日 （平年差）	穂揃期	
								月/日 （平年差）	葉色 GM （平年差）
移植	ひとめぼれ	三本木	水稲	5/5 （+1）	7/3 （-1）	7/14 （-1）	7/27 （-3）	7/29 -	32.1 （+1.1）
		小野田	水稲	5/21 （+4）	7/14 （+3）	7/23 （+2）	8/3 （-2）	8/5 -	37.9 （+3.9）
	ササニシキ	古川	水稲	5/6 （-2）	7/5 （-4）	7/15 （-5）	7/28 （-4）	7/30 -	33.5 （-1.5）
	平　均			5/10 （+1）	7/7 （-1）	7/17 （-1）	7/29 （-3）	7/31 -	34.5 （+1.2）
乾田直播	ササニシキ	古川	大豆	4/28	7/18	7/27	8/9	8/9	36.8
		三本木	大豆	4/10	7/9	7/27	8/2	8/4	41.0
			水稲	4/10	7/13	7/25	8/3	8/4	33.9
	ふくひびき	色麻	大豆	4/22	7/10	7/24	7/31	8/1	35.5

※平年差は、前５か年（令和２～６年）の平均値との比較。出穂期は、ほ場の全茎数４０～５０%出穂した日。

２　今後の管理

【水管理】

穂揃期以降は間断かん水にして、上位葉や根の活力を維持して登熟の促進に務めましょう。

登熟期の水分不足は、未熟粒の増加や千粒重の低下など、品質・収量を大きく低下させることから、落水時期は出穂後 30 日を目安としましょう。

【適期刈取】

①積算平均気温による判定

出穂期後の毎日の平均気温を積算して判定します。<u>中生種（ひとめぼれ、ササニシキ）は１,０００℃前後、山間地域の早生品種（やまのしずく等）は９２０℃前後が刈取適期の目安になります。</u>極晩生のつや姫の刈取始期は 1,000℃、終期は 1,200℃です。早く刈り過ぎる

と青未熟が多くなり、刈り遅れると着色米が発生します。刈取適期幅が狭いので注意しましょう。<u>８月上旬までに出穂したほ場では、９４０℃に到達する日数がかなり短縮する見込みですので、刈遅れにならないよう注意しましょう。</u>

表３　積算気温等による刈取適期の目安

品種名	積算気温	出穂後日数※
ひとめぼれ	940℃～1,100℃	４０日～４５日
まなむすめ 蔵の華	960℃～1,050℃	
ササニシキ	930℃～1,150℃	４５日～５０日
みやこがねもち	950℃～1,150℃	
だて正夢	1,020℃～1,060℃を目安に	５０日前後
金のいぶき	1,050℃～1,150℃	５０日～５５日
つや姫	1,000℃～1,２００℃	

※出穂後日数は平年における大まかな目安。高温年では短縮することに留意。

表４　出穂期後の積算平均気温到達日（８／２１以降の気温が前５か年並での推移を想定）

地帯	積算気温		出穂期												備考
			7/25	7/27	7/29	7/31	8/2	8/4	8/6	8/8	8/10	8/12	8/14	8/16	
北部平坦	940℃		8/31	9/2	9/4	9/7	9/9	9/11	9/14	9/16	9/18	9/20	9/23	9/26	北部平坦の出穂期は7/27
	1000℃		9/2	9/4	9/7	9/9	9/11	9/14	9/16	9/18	9/21	9/23	9/26	9/29	
	1100℃		9/5	9/8	9/10	9/12	9/15	9/17	9/20	9/22	9/25	9/28	9/30	10/3	
	～940℃日数		37	37	37	38	38	38	39	39	39	39	40	41	
	出穂後20日間気温(℃)	本年	**26.3**	**26.0**	25.9	**26.0**	25.9	25.8	25.6	25.7	25.7	25.6	25.4	25.2	
		前年	**26.7**	**26.9**	**26.9**	**26.9**	**26.8**	**26.9**	**26.7**	**26.7**	**26.6**	**26.5**	**26.1**	25.8	
西部丘陵	940℃		8/31	9/3	9/5	9/8	9/10	9/12	9/15	9/17	9/19	9/22	9/24	9/27	西部丘陵の出穂期は7/28
	1000℃		9/3	9/5	9/8	9/10	9/12	9/15	9/17	9/20	9/22	9/25	9/28	9/30	
	1100℃		9/6	9/9	9/11	9/14	9/16	9/19	9/21	9/24	9/27	9/29	10/2	10/5	
	～940℃日数		37	38	38	39	39	39	40	40	40	41	41	42	
	出穂後20日間気温(℃)	本年	25.9	25.6	25.5	25.7	25.6	25.4	25.2	25.2	25.2	25.1	24.8	24.5	
		前年	25.9	**26.2**	**26.3**	**26.3**	**26.3**	**26.4**	**26.2**	**26.2**	**26.1**	**26.0**	25.6	25.2	

注1)北部平坦は古川、西部丘陵は川渡のアメダスデータ使用。　8/20までは令和７年の値、8/20以降は前5か年平均値。
注2)出穂期後の積算平均気温到達推定日は、出穂期翌日から積算平均気温が940、1000、1100℃を超えた日とした。
注3)「～940℃日数」は出穂後の積算平均気温が940℃に到達するまでの日数。
注4)「出穂後20日気温」は、出穂後20日間の日平均気温の平均値。26℃以上（**太字**部分）では白未熟粒の発生が増加する。

②籾の黄化程度による判定

コンバインによる刈取始期の判断は、ほ場全体を平均して<u>籾の８０～９０%程度が成熟して黄色</u>になり、<u>穂軸が先端から３分の１程度黄変</u>した時期です。

③籾水分による判定

稔実籾の平均水分を目安に、刈り取り始めが２５%、刈り取り終期が２１%となります。

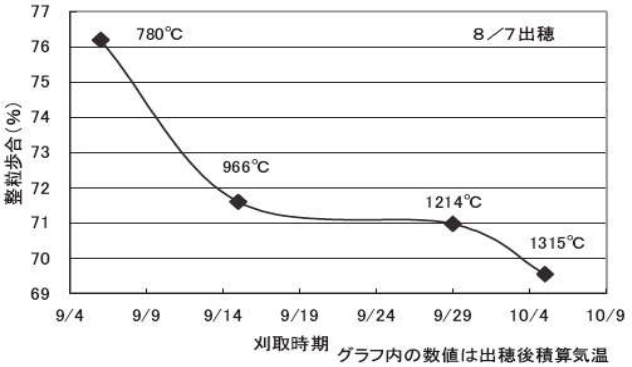

図２　刈取時期と整粒歩合の関係
（平 22 年古試「ひとめぼれ」）

【収穫・乾燥・調製】

①刈取作業

○コンバイン収穫では、<u>籾水分が 25%以下を目安に刈取作業</u>を行いましょう。

○複数の品種を刈り取る場合は、品種が替わる際に十分な清掃を行い、機械内における異品種の混入を未然に防ぐよう注意しましょう。

○ほ場内に**クサネムやツユクサがあると、**収穫時に種子が混入し、**米選機では取り除くことが難しくなる**ので、収穫作業前に必ず抜き取りましょう。

②乾燥・調製

○**コンバイン収穫した生籾を放置すると発熱して変質米の原因になるので、刈り取り後、速やかに乾燥機に張り込み、送風循環しましょう。**

○倒伏した稲や未熟粒の多い稲などは高水分籾の混入が多いため、過乾燥となりやすく、胴割米の発生・砕粒の増加・光沢の低下など品質低下を招きます。**高水分籾を機械乾燥する場合は、二段乾燥※を行い**、水分ムラや胴割米の発生などを抑えましょう。

※籾水分が 18.0%程度になったら火力乾燥を一時中断し、一定時間送風循環後、仕上げ乾燥を行うこと。

○**仕上がり玄米水分 14.5%～15.0%**が目標です。

○籾摺は、肌ずれ防止のため、籾の温度を室温まで下げてから行いましょう。

◆◆◆◆◆◆◆◆農薬危害防止運動（６月１日～８月３１日）◆◆◆◆◆◆◆◆◆◆

６月から８月にかけて、農作物等の病害虫が発生しやすく、農薬を使用する機会が最も多くなる時期です。農薬安全対策の不備や不注意等による事故が発生しやすくなるため、農薬使用による危害防止と環境に配慮した適正な農薬の使用を徹底しましょう。

運動のテーマ　「守ろう　農薬ラベル、確かめよう　周囲の状況」

東北地方（太平洋側）１か月予報

（８月２３日から９月 22 日までの天候見通し）

令和７年８月２１日

仙台管区気象台　発表※抜粋

＜予報のポイント＞

気温は、暖かい空気に覆われやすいため高いでしょう。期間の前半は気温がかなり高い見込みです。日照時間は多いでしょう。降水量は少ないでしょう。

＜予想される向こう１か月の天候＞

天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ曇りや雨の日が少ないでしょう。

＜向こう１か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率（％）＞

		低い(少ない)	平年並	高い（多い）
【気　　温】	東北地方	１０	２０	７０
【降 水 量】	東北地方	３０	４０	３０
【日照時間】	東北地方	２０	３０	５０
＜気温経過の各階級の確率（％）＞		低い	平年並	高い
１　週　目	東北地方	１０	１０	８０
２　週　目	東北地方	１０	２０	７０
３～４週目	東北地方	１０	３０	６０

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

古川農試に設置されている生育モニタリングほ場（「だて正夢」・「金のいぶき」・直播栽培）や県内全体の水稲生育情報はこちらからご覧いただけます。

＜https://www.pref.miyagi.jp/site/seikuzyoho/index.html＞

★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★★

「大崎地域の稲作技術情報」、「大崎地域の大豆作技術情報」、「大崎地域の麦作技術情報」は、当普及センターのホームページでもご覧いただけます。インターネットで「大崎農業改良普及センター」と検索または右の QR コードを読み取ってください。